

2018 年度大学院履修要項

(博士前期課程 3 研究科共通事項)

※2018 年度履修要項・シラバスより抜粋

目 次

VI 修士論文、課題研究論文について（博士前期課程共通）	
1. 学位論文提出の資格	57
2. 指導体制	57
3. 論文作成のプロセス	57
4. 論文の提出	59
5. 論文の形式・構成	60
6. 論文要旨について	60
7. 論文審査及び最終試験	60
8. 論文審査基準	60
9. 修士論文・課題研究論文発表会	62
10. 「特別研究・課題研究」のスケジュールと学修内容	63
11. 修士論文・課題研究論文の提出と保管	64
12. 文献の記載方法	64
13. 研究計画書、論文、論文要旨の書式・作成方法等について	64

VI 修士論文、課題研究論文について（博士前期課程共通）

1. 学位論文提出の資格

本大学院博士前期課程に2年以上在学して所定の単位を修得し、かつ必要な研究指導を受けた者は、学位論文審査を受けることができます。また、看護学研究科では特定の課題についての研究の成果の審査をもって修士論文の審査に代えることができます。

2. 指導体制

原則として、専攻する専門領域の教授が主指導教員として研究指導を行います。主指導教員は、入学時に学生ごとに決定します。また、各学生には副指導教員をおきます。このほか論文作成のために、学内のその他の教員や他の研究機関の教員から指導を受けたい場合には、主指導教員に相談してください。その他指導教員に関しては、下記「大学院複数指導体制に関する運用の申し合せ」によります。

論文テーマの変更等の事情により主指導教員の変更が必要な場合は、所定の手続きを経て行うことができます。

(1) 大学院複数指導体制

●主指導教員は、院生の研究指導及び学修全般について責任を持ちます。

●副指導教員は、以下のいずれかとし、それぞれの担当教員資格を有する教員とします。

＜副指導教員(A)＞

主指導教員に協力して、研究指導の補助・履修指導等及び院生の学修が円滑に行われるための役割を担います。

＜副指導教員(B)＞

主指導教員に協力して、院生の学修が円滑に行われるための役割を担います。

●院生は必要に応じて、主指導教員と話し合いの上、その他の本学教員に研究上の助言を受けることができます。

●ハラスメントへの配慮について

主指導教員及び副指導教員は、それぞれの役割において、意識するしないにかかわらず、院生にハラスメントととられるような言動がないよう常に注意します。

●副指導教員の選出方法について

副指導教員は、1名を必須とし、研究科長が主指導教員と院生の意見を聞き、当該教員の同意を得て研究科委員会に提案して承認を得ます。

3. 論文作成のプロセス（P. 63「VI-10.「特別研究・課題研究」のスケジュールと学修内容」参照）

(1) 研究計画書作成までのプロセス

＜2年コースの場合＞

主として学生の関心事に関わる文献検討を行い、研究の方向性を定めます。問題意識に関する検討を行い、研究の方向性を定め、研究計画を検討するために、1年次の各研究科で決めた時期に修士論文研究計画検討会もしくは修士論文・課題研究論文検討会を開催します。研究計画検討会もしくは論文検討会終了後、研究科で決めた期限までに研究計画書を提出します。

＜3年コースの場合＞

主として学生の関心事に関わる文献検討を行い、研究の方向性を定めます。問題意識に関する検討を行い、研究の方向性を定め、研究計画を検討するために、1～2年次の各研究科で決めた時期に修士論文研究計画検討会もしくは修士論文・課題研究論文検討会を開催します。研究計画検討会もしくは論文検討会終了後、研究科で決めた期限までに研究計画書を提出します。

(2) 学外の機関または学内で研究を行う場合の手続き

- a. 研究・研修内容は、実施前に指導教員の指導を受けてください。
- b. 他機関・施設において研究・研修などを行う場合
指導教員と相談の上、各自の責任においてあらかじめ交渉し、内諾を得て指導教員に報告します。その際に、公文書が必要であるかどうかの確認をし、必要なときには公文書の宛先・宛名を確かめます。
※看護学研究科：聖隷浜松病院、聖隷三方原病院では研究計画書作成後、総看護部長宛の公文書が必要です。
- c. 公文書が必要な場合
宛先・宛名を添えて指導教員に申し出て、教務事務センターに公文書の作成を依頼し、それに指導を受けた研究計画書(①研究テーマ、②研究目的、③研究方法・対象・期間、④研究内容の概要)を添付して、相手機関に提出します。
なお、公文書の作成には少なくとも1週間を要するので、期間の余裕をもって依頼してください。
- d. 学内で本学学生を対象とする研究を行う場合
指導教員に相談して行ってください。

(3) 倫理に関する留意事項とコンプライアンス教育について

- a. 倫理申請について
研究を行うにあたっては、研究の対象となる人の生命、健康、プライバシーを守り、尊厳及び権利を尊重するという一般的な研究倫理の適用に加えて、特に研究対象が脆弱性を有することを念頭にいた倫理的配慮が必要となります。
上記のように研究倫理に関わる、人を対象とする研究の実施に当たっては、本学倫理委員会に申請し承認を受けてください。
- b. コンプライアンス教育について
研究機関における公的研究費の管理・監査のガイドライン（文部科学大臣決定）」の平成26年2月18日改正に伴い、研究機関におけるコンプライアンス教育が義務化されました。その一環で本学では全ての研究者（学内研究費等の研究分担者を含む）および大学院生は「APRIN e-learningプログラム」の受講（有料・費用は本学負担）が必須となります。受講し要件を満たすと修了証が得られます。研究計画書を提出する時には、入学年度に関わらず、その修了証を添付するようにしてください。「APRIN e-learningプログラム」の受講方法は別途お伝えします。
※2017年4月よりCITI Japanから一般財団法人公正研究推進協会（APRIN）へ運営移管されました。

(4) 研究計画書について

- a. 提出について
各研究科で定められた日時までに教務事務センター窓口に直接提出してください。
提出日については、各研究科の論文審査プロセス表を参照してください。
- b. 構成について
「VI-13. 研究計画書、論文、論文要旨の書式・作成方法等について」を参照してください。
研究計画書の構成は、指導教員と相談して決めてください。
参考のため幾つかの例を次に示します。

例：

量的研究の場合：

- 第Ⅰ章 序論
 - 1. 研究の背景
 - 2. 研究目的
 - 研究課題あるいは仮説
 - 用語の定義
- 第Ⅱ章 文献レビュー
 - 概念枠組
- 第Ⅲ章 研究方法(研究対象・関係機関との調整方法、予備調査の方法を含む)
 - 1. 研究対象と場
 - 2. データ収集方法
 - 3. データ分析方法
 - 4. 研究における倫理的配慮
- 文献

質的研究の場合：

- 第Ⅰ章 序論
 - 1. 研究の背景あるいは問題(現象)の記述
 - 2. 研究目的
- 第Ⅱ章 文献レビュー
- 第Ⅲ章 研究方法(研究対象・関係機関との調整方法、予備調査の方法を含む)
 - 1. 質的方法を選択する理由
 - 2. 研究の場と対象
 - 3. データ収集過程
 - 4. データ分析方法
 - 5. 研究における倫理的配慮
- 文献

※研究倫理審査

研究計画書のうち倫理審査を受けるべきことに関しては、本学の倫理委員会に申請し承認を受けてください。倫理委員会への申請方法等に関しては、「聖隷クリストファー大学倫理委員会規程」及び「研究倫理のためのチェックリスト」を参考にしてください。

なお、研究計画書の提出と倫理審査は独立して扱いますので、どちらが先になってもかまいません。

4. 論文の提出

(1) 提出期限・提出先・提出書類

学位の審査を希望する者は、修士論文・課題研究論文、及び関係書類を提出してください。

提出期限	1月中旬あるいは7月中旬の指定日の18時まで
提出先	教務事務センター窓口に直接提出
提出書類	①修士論文または課題研究論文…4部(正1部、副3部) ②論文要旨……………4部(フラットファイルには綴じ込まない) ③学位申請書 ④修士論文審査願

「IV-13. 研究計画書、論文、論文要旨の書式・作成方法等について」も参照してください。

5. 論文の形式・構成

(1) 論文の構成

以下の例を参考に指導教員と相談の上、まとめてください。図表は本文中の適切な場所に挿入してください。また、「VI-13. 研究計画書、論文、論文要旨の書式・作成方法等について」及びp. 70 博士後期課程「VII-4-(4)-4 主論文の構成」に示した①～④の書籍を参考にしてください。

表紙
要旨
目次
第Ⅰ章 序論
第Ⅱ章 文献レビュー
概念枠組
第Ⅲ章 研究方法
第Ⅳ章 結果
第Ⅴ章 考察
結論
文献
資料

※必要に応じて小見出しをつけます。見出しの区分は次を参考にしてください。

第Ⅰ章
1.
1)
(1)

6. 論文要旨について

「13. 研究計画書、論文、論文要旨の書式・作成方法等について」を参照してください。

7. 論文審査及び最終試験

原則として2年次もしくは3年次の1月下旬に行います。

また、所定の年次を過ぎて春セメスターで修了する場合は、7月下旬に行います。

8. 論文審査基準

(1) 研究論文審査基準

修士論文の審査に当たっては、次に掲げる各項目を評価基準として考慮します。

1. 研究には新しい知見や工夫が含まれている
2. 研究計画が適切である
3. データ・資料の取り扱いが適切である
4. 先行研究の取り扱いが適切である
5. 論文構成が体系的で、論旨は明確で一貫性がある
6. 表現、表記法が適切である
7. 研究における倫理的配慮がなされている

また、評価基準（査読基準）は次の通りです。

研究論文評価表（3研究科博士後期課程・博士前期課程共通）

評 価		A B C D 4段階評価 (A : 1 0 0－8 0、B : 7 9－7 0、C : 6 9－6 0、D : 5 9以下)
		総合評価 合格、修正後合格（誤字脱字、文法表現等の修正など）、 修正後再審査、不合格
項 目		論文評価項目（3 研究科共通）
研究課題		1．研究の表題は研究内容を適切に示している
研究の意義		2．研究する問題は各領域において重要な内容であり、研究の意義が示されている
文献検討		3．文献検討は先行研究を踏まえ、研究する問題と関連している
研究内容	研究目的	4．研究目的、研究の問いが明確である
	研究方法	5．研究目的に照らして研究方法が適切である
	概念/用語	6．使用されている概念・用語は適切である
		7．重要な用語が定義されている
	倫理的配慮	8．倫理的配慮がなされている
	資料の記載法	9．図表は本文の説明と適合しており、図表の体裁（タイトル、形式）が整い、数値や単位の表記が正しい
	資料の分析と解釈	10．分析の結果が明確に示されている
		11．解釈はデータに裏付けられている
結果の導き方	12．結果の導き方は論理的で飛躍や矛盾がない	
考察		13．考察は研究結果に基づいている
研究の限界		14．研究の限界、今後の研究の展開などが述べられている
論文全体	論文構成	15．論文は論理的に構成されている
	文章	16．文章は理解しやすく適切である
要旨		17．要旨の内容は適切である

(2) 課題研究論文審査基準（看護学研究科高度実践看護コース）

課題論文の審査に当たっては、次に掲げる各項目を評価基準として考慮します。

1. 看護実践にそくした課題が含まれている
2. 研究計画が適切である
3. データ・資料の取り扱いが適切である
4. 先行研究の取り扱いが適切である
5. 客観的で論理的である
6. 表現、表記法が適切である
7. 研究における倫理的配慮がなされている

また、評価基準（査読基準）は次の通りです。

課題研究論文評価表（看護学研究科高度実践看護コース）

評 価		A B C D 4段階評価 (A : 100 - 80、B : 79 - 70、C : 69 - 60、D : 59以下)
		総合評価 合格、修正後合格（誤字脱字、文法表現等の修正など）、修正後再審査、不合格
項 目		論文評価項目（看護学研究科高度実践看護コース）
研究課題		1. 研究の表題は、研究内容を適切に示している
研究の意義		2. 研究する問題は各領域において看護実践の重要な内容であり、研究の意義が示されている
文献検討		3. 文献検討は、研究する課題と関連している
研究内容	研究目的	4. 研究目的、研究の問いが明確である
	研究方法	5. 研究目的に照らして研究方法が適切である
	概念/用語	6. 重要な用語が定義されている
	倫理的配慮	7. 倫理的配慮がなされている
	資料の記載法	8. 図表は本文の説明と適合しており、図表の体裁（タイトル、形式）が整い、数値や単位の表記が正しい
	資料の分析	9. 分析の結果が明確に示されている
	結果の導き方	10. 結果の導き方は論理的で飛躍や矛盾がない
考察		11. 考察は研究結果に基づいている
論文全体	論文構成	12. 論文は論理的に構成されている
	文章	13. 文章は理解しやすく適切である
要旨		14. 要旨の内容は適切である

9. 修士論文・課題研究論文発表会

原則として2月下旬あるいは9月に行います。

当日の資料として、発表者の論文要旨を1冊にまとめ、表紙、目次をつけたものを準備します。

10. 「特別研究・課題研究」のスケジュールと学修内容

	1年次		2年次	
	春セメスター	秋セメスター	春セメスター	秋セメスター
文献検討 研究計画立案 研究計画検討会	←→	←→		
研究計画書提出・審査 研究計画書承認 計画書倫理審査申請書作成 計画書倫理審査申請 計画書倫理審査承認		←→	←→	
研究開始： データ収集 データ分析 論文執筆 論文提出		←→	←→	1月中旬
論文審査・最終試験 論文審査結果承認(合否判定) 大学院委員会等の承認を得て合否決定 合格論文発表会				1月末 1月末 3月初 3月初
履修単位(1単位：30時間) 特別研究(8単位)	2		2	4
課題研究(2単位)			1	1
各時期の学修内容	①自身の課題に焦点を当てて、文献検討を行い、 ②研究計画検討会で発表し、発表や指導教員からの 批評・助言をもとに推敲する。 ③研究計画書を完成させる。 ④倫理審査申請書を作成する。 ⑤倫理審査申請書を倫理委員会に申請する。 ⑥データを収集する。 ⑦データを分析し、論文を作成する。 ⑧研究内容を発表する。 ⑨論文審査と最終試験を受ける。			

11. 修士論文・課題研究論文の提出と保管

学位授与決定後、以下の手続きを行ってください。

1) 論文の提出

提出期限	2月末日あるいは9月の所定の日まで
提出先	教務事務センター
提出書類	修士論文・課題研究論文…正1部 ・誤字の修正や、必要な場合は内容の訂正を行い、要旨を表紙の次に綴じ込む。 ・封筒に入れ、封をして提出。 ・修正がない場合、提出は不要。

※この論文は、提出された状態で製本に出します。よく確認した上で提出してください。

製本した後、図書館に保管します。製本は図書館で行います。

2) 「学位論文の保管及び公開許諾書(修士)」の提出

修士論文・課題研究論文は「未公表の著作物」であるため、著作者の許諾を得て図書館に保管し、利用者の閲覧、複写や、データベースでの公開を行います。

提出期限	2月末日あるいは9月の所定の日まで（上記論文提出と併せて）
提出先	図書館事務センター
提出書類	「学位論文の保管及び公開許諾書(修士)」…1部 ・様式は教務事務センターHPからダウンロードして自筆により作成。 ・リハビリテーション科学研究科と社会福祉学研究科では主指導教員の承諾印も必要です。 ・リハビリテーション科学研究科と社会福祉学研究科では公開及びその範囲（閲覧、複写、データベースでの公開）を著作者が選択することができます（看護学研究科の公開範囲は閲覧のみとします）。

12. 文献の記載方法

文献の記載方法は、下記の「APA論文作成マニュアル」の第4章：引用文献リスト、もしくは日本心理学会「執筆・投稿の手引き」の1.6：引用・言及、によるものとします。

APA（アメリカ心理学会）「APA論文作成マニュアル」（医学書院）
日本心理学会「執筆・投稿の手引き」（<http://www.psych.or.jp/publication/inst.html>）

13. 研究計画書、論文、論文要旨の書式・作成方法等について

(1) 共通事項

- パソコンを用いて作成
- A4判上質紙を使用
- 上下左右の余白は30mm、1ページの字数は40字×35行（1,400字）
- 横書き、明朝体、文字の大きさは10.5ポイント

(2) 研究計画書

- 6～7枚程度
- 1枚目に所属（研究科・分野・領域）、学籍番号、氏名、指導教員名、提出年月日を記載。
- 研究の説明書（研究協力のお願ひ）、同意書、質問紙等を添付。（a.の枚数制限には含まれない）
- APRIN e-learningプログラム修了証を添付。

(3) 論文

- a. 論文タイトル及び論文中的見出しの文字については明朝体14ポイント、強調文字。
- b. 図表は本文中の適切な場所に挿入。
- c. 論文に綴じ込む「要旨」は表紙の次につける。
1行目中央に14ポイント強調文字で「要旨」と記載し、1行空けて本文とする。
研究の背景、目的、方法、結果、考察、結論について、項目を立ててまとめる。
書式は、「論文要旨」に準じる。
- d. 正1部はフラットファイルに綴じないでそのまま封筒に入れて提出。
- e. 副3部はA4紙フラットファイルに「表紙(資料1参照)、要旨、目次、本文、付録」の順に綴じる。

資料1 修士論文・課題研究論文用ファイルの表紙の書き方

(自筆あるいは印字シールを用いる)

〇〇年度聖隷クリストファー大学大学院 〇〇研究科 修士論文 (または課題研究論文) 論文題目 (枠で囲むこと) 専攻分野・専攻領域 学籍番号 氏名
--

中とびらに、表紙と同じ内容の白表紙をつける。年度は西暦で記載する。

(4) 論文要旨

- a. 2枚以内
- b. 論文題目は12ポイント強調文字とし用紙中央に配置。
- c. 副題のあるときはハイフン（-）を用いて2段目に書く。
- d. 専攻分野・専攻領域、学籍番号及び氏名は右寄せ。
- e. 氏名から1行空けて本文。
- f. 1 ページ目上部に論文題目、所属（研究科・分野・領域）、学籍番号、氏名を記載。
- g. 本文は研究の背景、目的、方法、結果、考察、結論について、項目を立ててまとめる。